

入院のみ 外来のみ ○共通	適応がん種	レジメン名(略語)	臨床使用分類	抗癌剤適応分類	1コース期間
	切除不能な局所進行 非小細胞肺癌	イミフィンジ	○日常診療	術前化学療法	14日
			臨床試験審議中	術後補助療法	
			治療承認済・審議中	進行・再発	予定総コース
			○その他(維持療法)		12ヶ月まで

☆上記のうち該当箇所○を付けてください

処方No	薬品名(商品名)、溶解液の種類と量	1回投与量	投与時間又は用法	投与日(d1,8など)	投与経路
1	生理食塩液	200mL	1時間	d1	主管
2	イミフィンジン	10mg/kg			
	生理食塩液	100mL	1時間	d1	側管
			最終濃度を1~15mg/mL		

留意点および急性期有害事象等	<p><投与基準></p> <p>※切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的放射線療法後の維持療法(投与期間は12ヶ月まで)</p> <p>※術後補助化学療法における有効性及び安全性は確立していない。</p> <p>WBC>2000/mm³、Neutro>1000/mm³、Hb>7.0g/dl、PLT>50,000/mm³、総ビリルビン<施設基準値上限の2倍、AST/ALT<施設基準値上限の3倍、血清クレアチニン2.0mg/dl以下、SpO₂>94%、体温<38℃</p> <p>治療開始前にHBs抗原、HBc抗体およびHBs抗体を測定し、アルゴリズムに沿ってHBV-DNA定量検査を行うこと。</p> <p><有害事象>PACIFIC試験 Grade3/4 放射線肺臓炎(3.4%)・肺炎(4.4%)・呼吸困難(1.5%)・貧血(2.9%)</p> <p><減量・中止基準></p> <p>【間質性肺炎】【大腸炎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Grade2: Grade1に回復するまで休薬 ・Grade3 ≤ : 中止 <p>【肝機能障害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AST若しくはALTが基準値上限の3~5倍以下又は総ビリルビンが基準値上限の1.5~3倍以下まで増加 ・AST若しくはALTが基準値上限の8倍以下又は総ビリルビンが基準値上限の5倍以下まで増加 →Grade1以下に回復するまで休薬 ・AST若しくはALTが基準値上限の8倍超又は総ビリルビンが基準値上限の5倍超まで増加 ・AST若しくはALTが基準値上限の3倍超かつ総ビリルビンが基準値上限の2倍超まで増加(本剤以外に原因がない) →中止 <p>【甲状腺機能亢進】【I型糖尿病】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Grade2~4: 症状が安定するまで休薬 <p>【腎機能障害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血清クレアチニンが基準値上限又はベースラインの1.5~3倍まで増加した場合: Grade1以下に回復するまで休薬 ・血清クレアチニンが基準値上限又はベースラインの3倍超えまで増加した場合: 中止 <p>【皮膚障害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Grade2で1週間以上継続/Grade3: Grade1以下に回復するまで休薬 ・Grade4: 中止 <p>【Infusion reaction】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Grade1/2: 投与を中断若しくは投与速度を50%減速する。 ・Grade3/4: 中止 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Grade2/3: Grade1以下に回復するまで休薬 ・Grade4: 中止 <p><その他注意></p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.2又は0.22 μ mインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製等)を使用
----------------	--

参考文献	・Antonia SJ et al. Durvalumab after Chemoradiotherapy in Stage III Non-Small-Cell Lung Cancer. N Engl J Med. 2017 Nov 16;377(20):1919-1929.
------	---

夜間、帰宅時、対応医師への連絡先	平日の日中は呼吸器外来(3111,3112) 夜間や休日は当直(8029,8019)
------------------	---